

2010年札幌での巡回展「おとづれし女神たち」展にひきつづきおもうちこと

幼子が描く初めての絵はどんな衝動に突き動かされて  
姿をあらわすのだろうか

2002年の終わりごろ

私は初めての個展を小さな喫茶店で開かせてもらった  
そのときもそしてそれ以降も  
何を描こうという何等の予見もなく  
絵は私の目の前に忽然と姿を現してくる

2010年の「女神」の絵もそうして忽然とうまれてきた。

それは幼子が何かに突き動かされて描く初めての絵と  
同じなのだろうか  
時々不思議な思いにとらわれながら  
ただ確かなのは  
私の絵を見てくださる方がいて  
そのことを絵がとても喜んでいるということ  
見てくださる方がいて  
絵が輝きだし、動きだし  
お喋りを始めるということ

私の喜びはそれを目の当たりにすることである

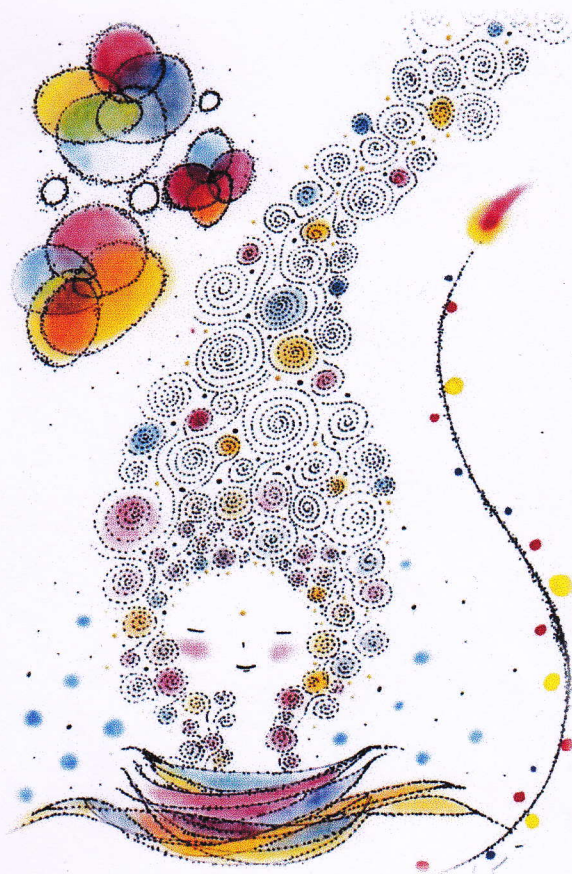
そのことにただ感謝するのみである

これからもこれまでと同じように

この「絵」を描くという手仕事が「つづく……」のであろうか……

女神の絵はひきつづき私の手から世界へととびだしてゆくのであろうか……

私はパステルの他にペンや墨など手じかにある画材をつかい変化してゆく絵の行方を  
追いかけて「つづけている」



せおりつひめ

たぐちようこ